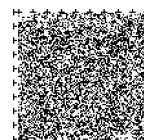


高齢期の障害のある人の実態調査

<概 要 版>

平成24年 3 月

千 葉 県



【調査の目的】

高齢期の障害者の生活実態を調査することにより、高齢期の障害者が抱える不安、課題等を把握・分析し、第四次千葉県障害者計画の見直しへの反映など、今後の施策立案の基礎資料とすることを目的に実施した。

【調査の対象・項目】

＜調査票１＞ 対象：施設または病院に入所・入院している人

＜調査票２＞ 対象：自宅・グループホーム・ケアホーム・生活ホーム居住者

〔調査数：2,804（居所状況に従い調査票１・２のどちらか一方の回答を依頼した）〕

調 査 項 目	調査票1(入所・入院)	調査票2(在宅・グループホーム等)
施設への入所・病院への入院	○	—
家族・介助者・支援者	—	○
施設・病院での生活	○	—
日常生活	—	○
健康・医療	○	○
障害福祉サービスについて	○	○
介護保険サービスについて	—	○
権利擁護	○	○
情報・コミュニケーション	○	○
就労の状況	—	○
将来の暮らし	○	○

＜調査票３＞ 対象：市町村 〔調査数：54〕

○障害福祉サービスから介護保険への切り替えの状況

○高齢期の障害者に必要な制度やサービス

＜調査票４＞ 対象：事業者 〔調査数：100（入所系・通所系・相談系・訪問系各25）〕

○障害福祉サービスから介護保険への切り替えにより生じる課題

○高齢期の障害者に必要な制度やサービス

【調査方法】郵送または関係団体を通じて配付して回答を依頼し、郵送で返信を求めた。

【調査期間】平成23年6月13日～7月31日

【回収結果】

＜調査票１・２＞ 有効回収数 調査票１：327票、調査票２：1,219票（総有効回収率 55.1%）

＜調査票３＞ 有効回収数：38票（有効回収率 70.3%）

＜調査票４＞ 有効回収数：54票（有効回収率 54.0%）

【回答状況】（無回答者は割愛）

障害者手帳種別（複数回答）		
種 別	調査票 1	調査票 2
身 体	115人	746人
療 育	140人	265人
精 神	72人	195人

年 代		
年 代	調査票 1	調査票 2
40代	137人	343人
50代	73人	244人
60歳以上	111人	613人

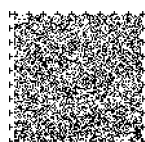
【報告書の見方】

○調査結果概要において、入所・入院している障害のある人への質問項目に＜入所・入院＞、在宅の障害のある人への質問項目に＜在宅＞と表記した。

○本概要版には調査項目のうち特徴的なものを掲載しているが、設問において、

【全体の概要】【障害者手帳種別（身体・知的・精神）】【年代・加齢】の観点から傾向等を整理している。

○図表中の「n」は、本文中に特に注釈のない限り、質問に対する回答件数を示す。



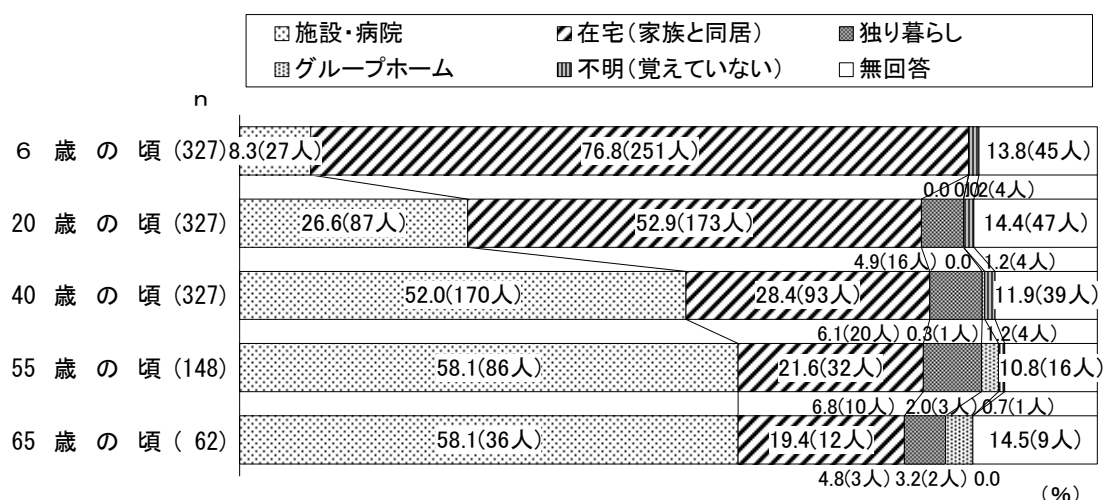
I 高齢期の障害者実態調査の結果概要（調査票1・2）

1 これまでの生活

（1）＜入所・入院＞過去の生活の場所（報告書13～14ページ）

【概要】 「施設・病院」は6歳の頃で8.3%、20歳の頃で26.6%、40歳の頃で52.0%、55歳の頃で58.1%、65歳の頃で58.1%となっている。（図表1-1-1）

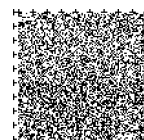
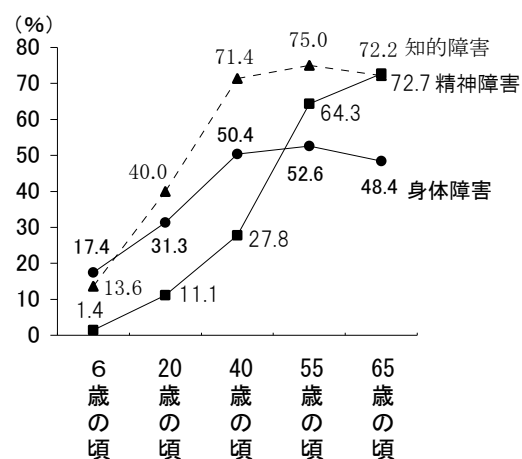
図表1-1-1 過去の生活の場所



【種別】 「施設・病院」は、身体障害で、知的障害や精神障害と比べて55歳の頃以降について割合が低くなっている。（図表1-1-2）

【加齢】 「施設・病院」は、精神障害と知的障害では、加齢により増加傾向にある。身体障害では、40歳の頃までは加齢により増加しているが、40歳の頃以降については横ばい傾向となっている。（図表1-1-2）

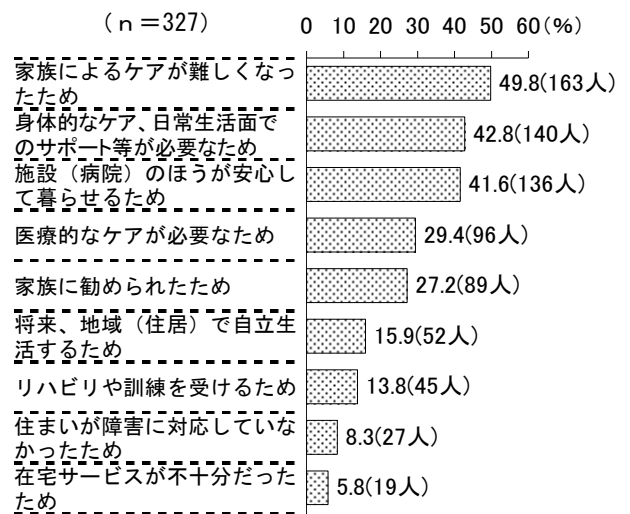
図表1-1-2 施設・病院に入所(入院)していた人の割合ー障害種別



(2) <入所・入院>入所・入院することを決めた理由（複数回答）（報告書15～19ページ）

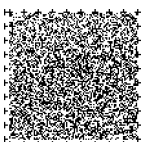
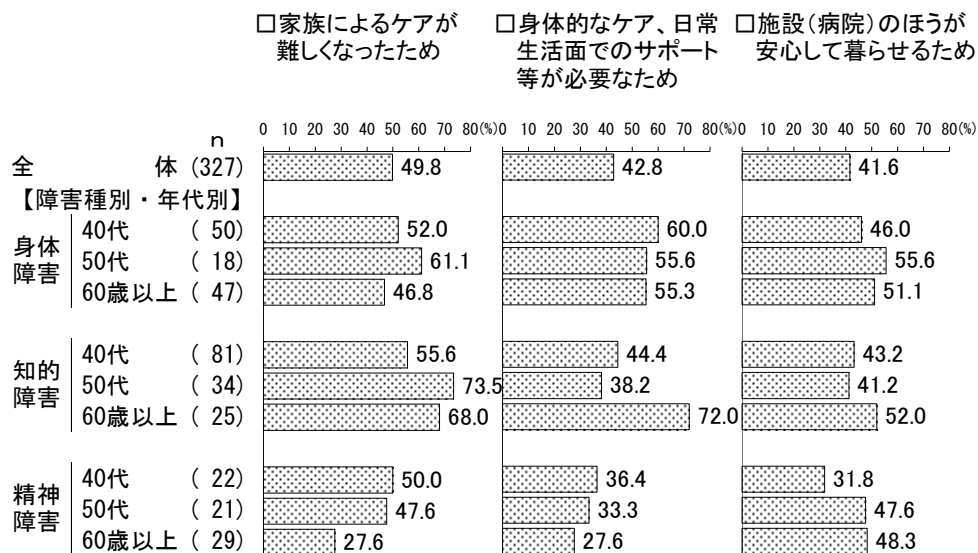
【概要】 「家族によるケアが難しくなったため」（49.8%）、「身体的なケア、日常生活面でのサポート等が必要なため」（42.8%）、「施設（病院）のほうで安心して暮らせるため」（41.6%）の3項目がいずれも4割台となっている。（図表1－2－1）

図表1－2－1 入所・入院することを決めた理由



【年代】 年代が進むにつれ、精神障害では、「施設（病院）の方が安心して暮らせるため」の割合が高くなり、一方で「家族によるケアが難しくなったため」、「将来、地域（住居）で自立生活するため」の割合が低くなる。（図表1－2－2）

図表1－2－2 入所・入院することを決めた理由一年代別

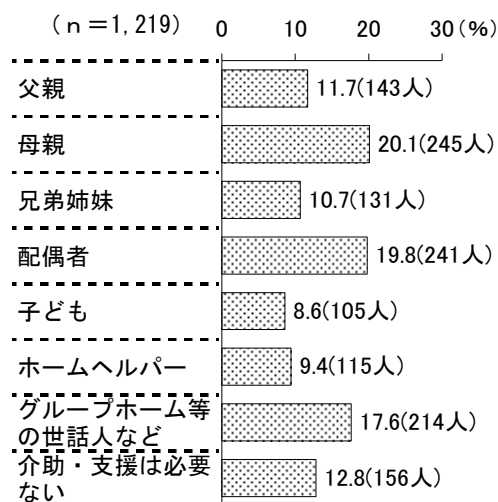


(3) <在宅> 普段の生活における主な介助者・支援者（複数回答）（報告書23～28ページ）

【概要】 「母親」が20.1%、「配偶者」が19.8%で多く、次いで「グループホーム等の世話人など」（17.6%）、「父親」（11.7%）、「兄弟姉妹」（10.7%）などの順となっている。「介助・支援は必要ない」は12.8%である。

（図表1-3-1）

図表1-3-1 普段の生活における主な介助者・支援者

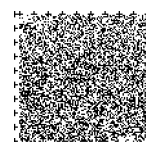
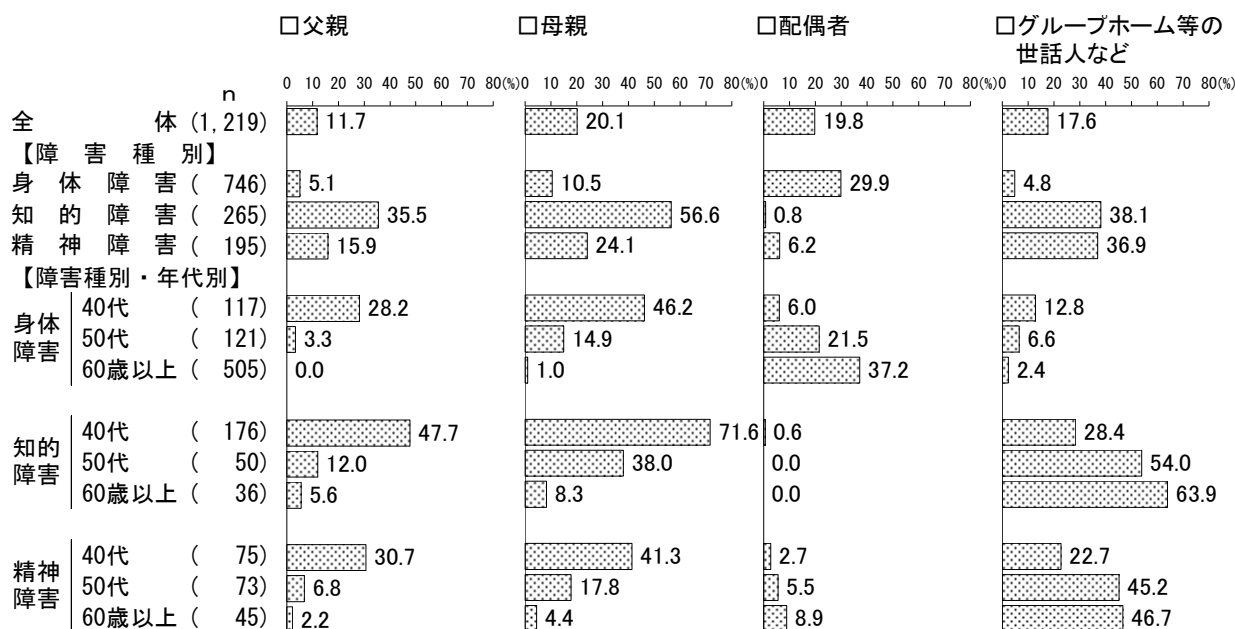


【種別】 身体障害では、「配偶者」（29.9%）が多く、知的障害では、「母親」（56.6%）、「父親」（35.5%）、「グループホーム等の世話人など」（38.1%）が多い。精神障害では、「グループホーム等の世話人など」（36.9%）、「母親」（24.1%）、「父親」（15.9%）が多い。

（図表1-3-2）

【年代】 年代が進むにつれて、障害種別に関わらず「母親」「父親」は大きく減少している。逆に、年代が進むにつれて、身体障害では「配偶者」が、知的障害・精神障害では「グループホーム等の世話人など」が大きく増加している。（図表1-3-2）

図表1-3-2 普段の生活における主な介助者・支援者—障害種別・年代別

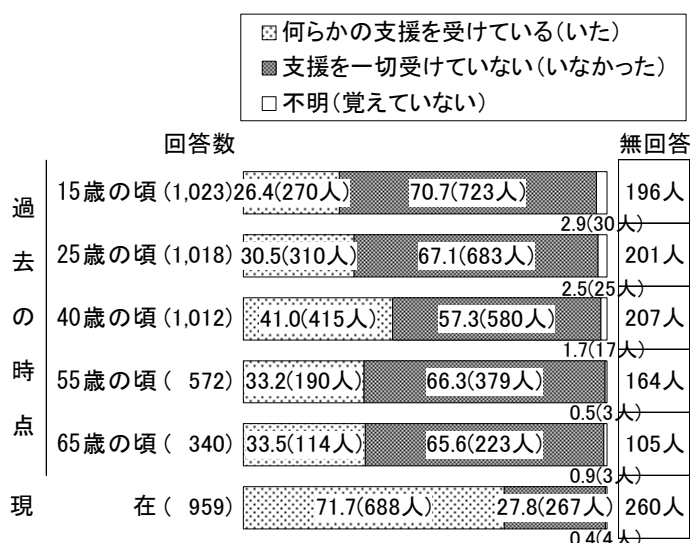


(4) <在宅> 現在および過去に受けていた支援の内容（報告書29～46ページ）

【概要】 何らかの支援を受けている（いた）か否かについてみると、現在支援を受けている人は71.7%となっている。「支援を受けていた」は、15歳の頃で26.4%、25歳の頃で30.5%、40歳の頃で41.0%、55歳の頃で33.2%、65歳の頃で33.5%となっている。

（図表1-4-1）

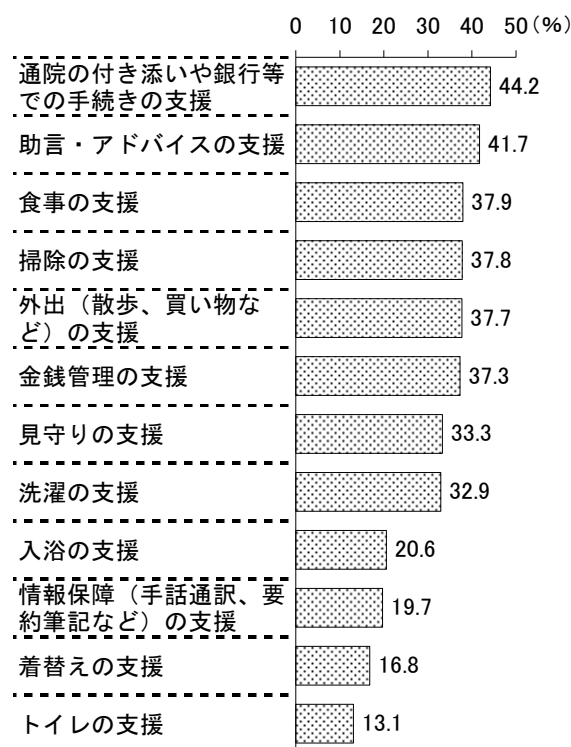
図表1-4-1 現在および過去に何らかの支援を受けている(いた)か否か



（注）上図の割合は、いずれも回答数に占める割合を示す。無回答は母数に含まない。

【概要】 現在支援を受けている割合の高い項目は、通院の付き添いや銀行等での手続きの支援（44.2%）、助言・アドバイスの支援（41.7%）、食事の支援（37.9%）、掃除の支援（37.8%）、外出（散歩、買い物など）の支援（37.7%）、金銭管理の支援（37.3%）などとなっている。（図表1-4-2）

図表1-4-2 現在受けている支援

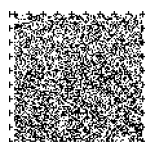


（注）上図の割合は、各項目で「現在支援を受けている」と答えた人が、各項目の回答数に占める割合を示す。無回答は母数に含まない。

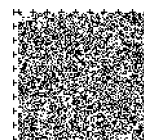
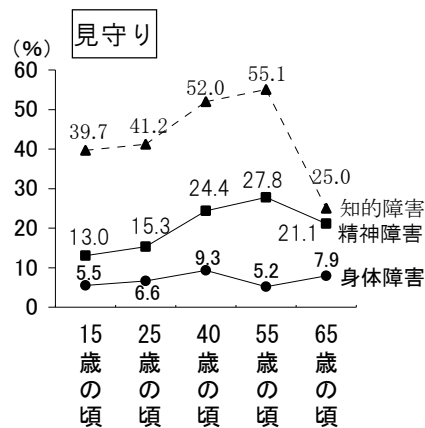
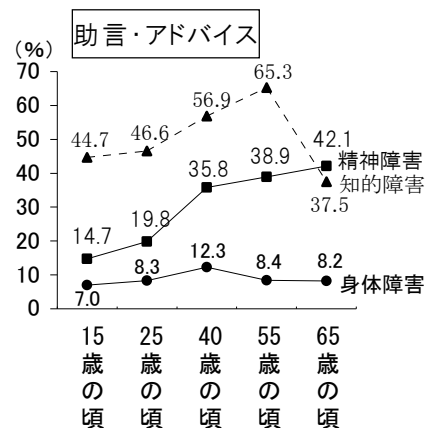
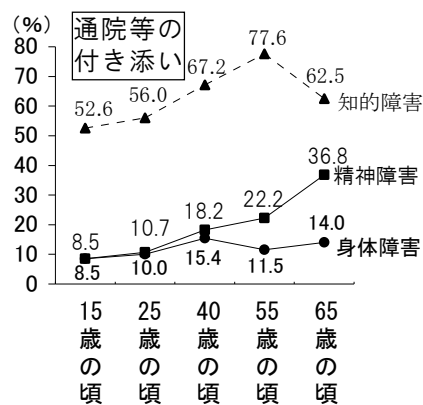
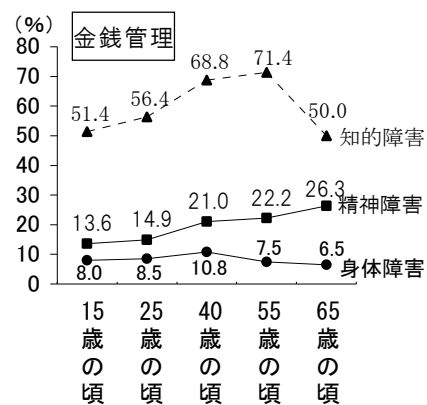
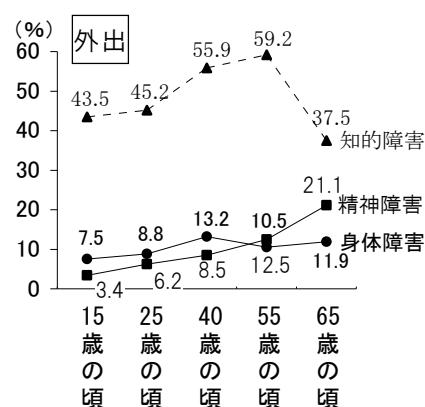
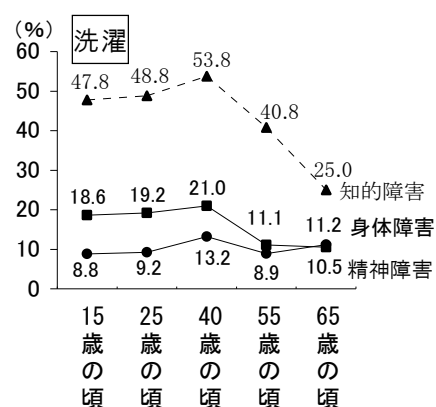
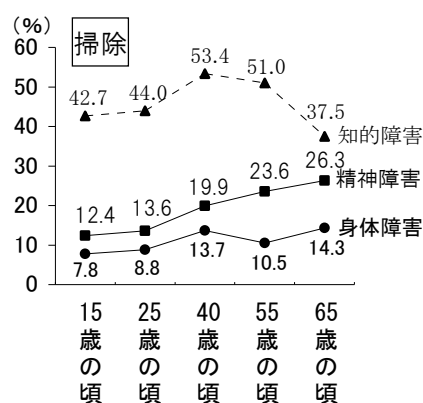
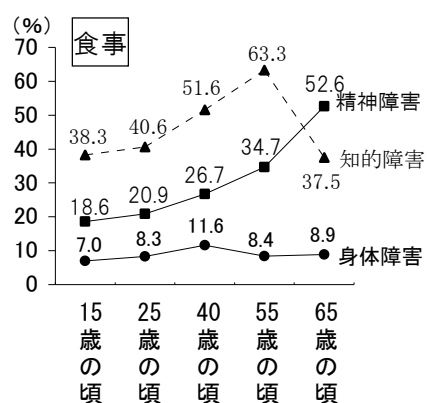
【種別】 知的障害は、着替えや食事など全ての項目で身体障害、精神障害よりも割合が高いが、中でも「食事」「掃除」「洗濯」「外出」「金銭管理」「通院の付き添いや銀行等での手続き」「助言・アドバイス」「見守り」の割合が高くなっている。

（図表1-4-3）

【加齢】 身体障害では、加齢によっても支援を受ける人の割合はおおむね横ばいで推移しているが、知的障害・精神障害では、「食事」「外出」「金銭管理」「通院の付き添いや銀行等での手続き」「助言・アドバイス」「見守り」の項目で、加齢により増加傾向にある。（図表1-4-3）



図表1-4-3 支援を受けている(いた)人の割合(支援内容別)



2 日常生活

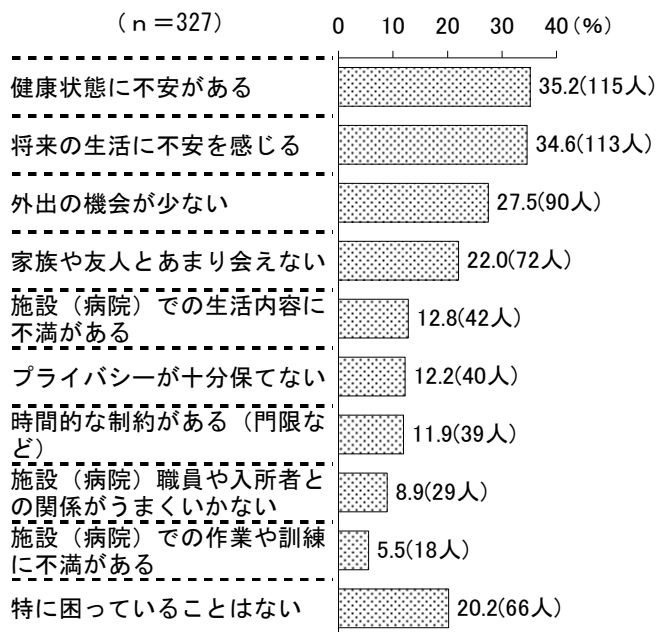
(1) <入所・入院> 日常生活で困っていること（複数回答）（報告書57～61ページ）

【概要】 「健康状態に不安がある」(35.2%)と「将来の生活に不安を感じる」(34.6%)の2項目が3割半ばで多く、次いで「外出の機会が少ない」(27.5%)、「家族や友人とあまり会えない」(22.0%)などの順となっている。(図表2-1-1)

【種別】 身体障害では「健康状態に不安がある」(40.0%)が多く、知的障害では「外出の機会が少ない」(32.9%)が多い。精神障害では「健康状態に不安がある」(45.8%)が多いが、他の障害と比べて「将来の生活に不安を感じる」(44.4%)の割合が高い。

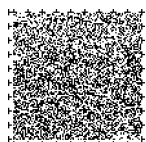
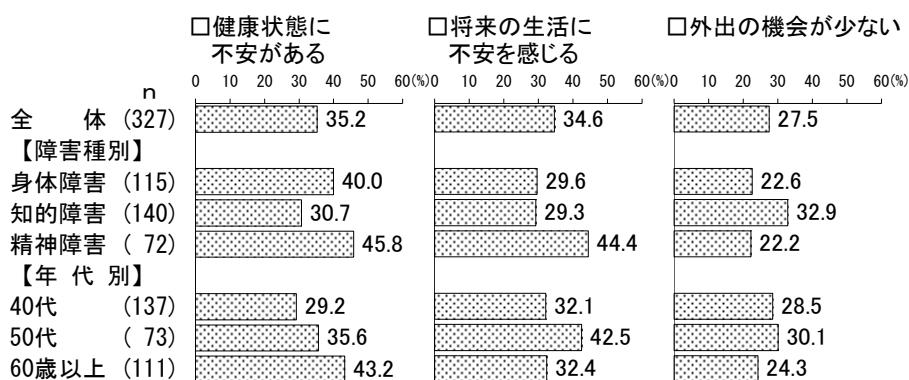
(図表2-1-2)

図表2-1-1 日常生活で困っていること



【年代】 年代が進むにつれ、「健康状態に不安がある」の割合が高くなる。(図表2-1-2)

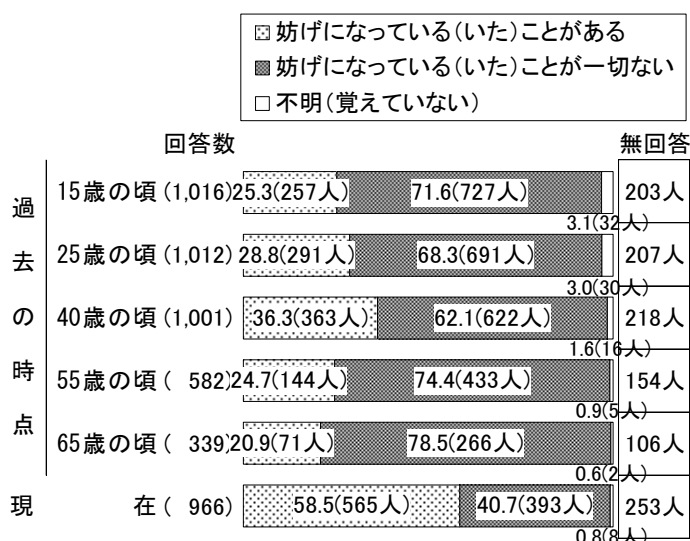
図表2-1-2 日常生活で困っていること(障害種別、年代別)



(2) <在宅> 現在および過去において日常生活で妨げになっていること(報告書62～73ページ)

【概要】 何らかの妨げになっている(いた)ことがあるか否かについてみると、現在は「妨げになっていることがある」が58.5%、「妨げになっていることが一切ない」が40.7%となっている。「妨げになっていた」の割合は、15歳の頃で25.3%、25歳の頃で28.8%、40歳の頃で36.3%、55歳の頃で24.7%、65歳の頃で20.9%となっている。(図表2-2-1)

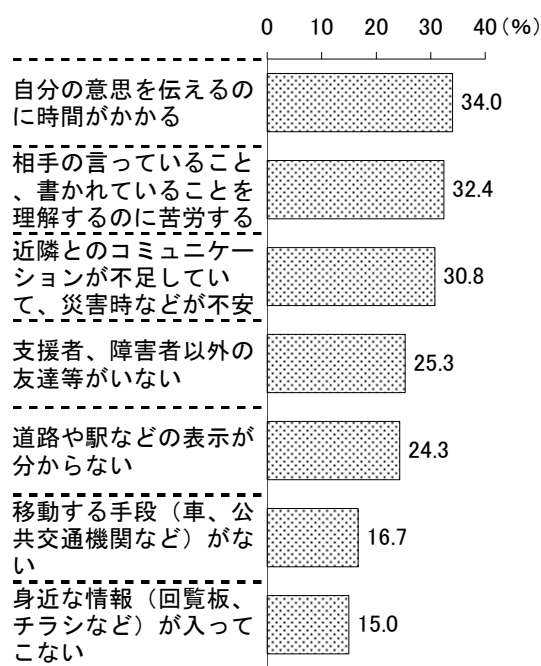
図表2-2-1 現在および過去において日常生活で妨げになっている(いた)ことの有無



(注) 上図の割合は、いずれも回答数に占める割合を示す。無回答は母数に含まない。

【概要】 現在妨げになっていることの割合が高い項目は、「自分の意思を伝えるのに時間がかかる」(34.0%)、「相手の言っていること、書かれていることを理解するのに苦労する」(32.4%)、「近隣とのコミュニケーションが不足していて、災害時などが不安」(30.8%)、「支援者、障害者以外の友達等がいない」(25.3%)などの順となっている。(図表2-2-2)

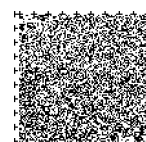
図表2-2-2 現在妨げになっていること



(注) 上図の割合は、各項目で「現在妨げになっていることがある」と答えた人が、各項目の回答数に占める割合を示す。無回答は母数に含まない。

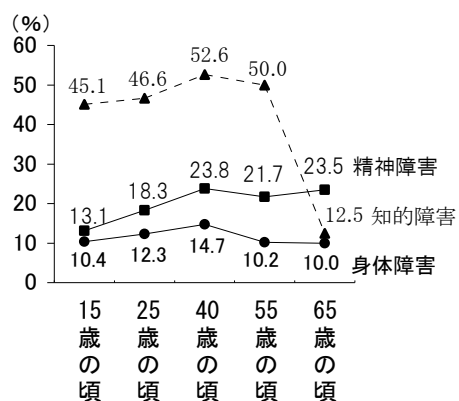
【種別】 身体障害では他の障害と比べて日常生活での支障の割合が低い。知的障害では全ての項目で身体障害、精神障害よりも割合が高いが、中でも「支援者、障害者以外の友達等がいない」「自分の意思を伝えるのに時間がかかる」「相手の言っていること、書かれていることを理解するのに苦労する」の割合が高くなっている。(図表2-2-3)

【加齢】 いずれの項目においても加齢により日常生活での支障があるという割合が高くなる傾向にある。身体障害では加齢による変化はあまり見られないが、知的障害では、他の障害に比べて若年期から日常生活での支障の割合が非常に高く、加齢により増加は微増にとどまる傾向にある。精神障害では、加齢による日常生活での支障の増加が顕著である。(図表2-2-3)

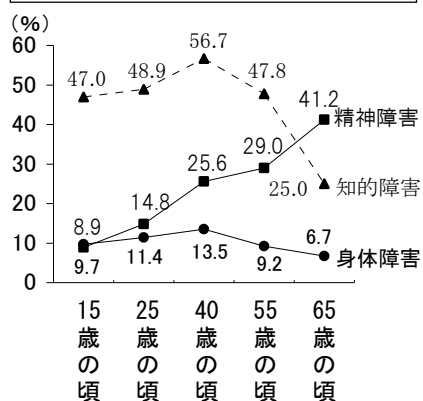


図表2-2-3 現在および過去において日常生活で妨げになっている(いた)ことがある人の割合(内容別)

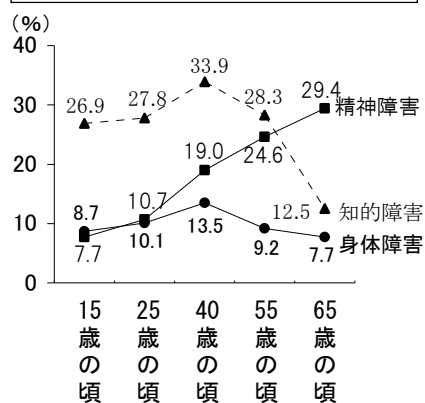
自分の意思を伝えるのに時間がかかる



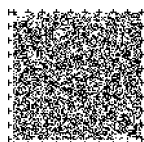
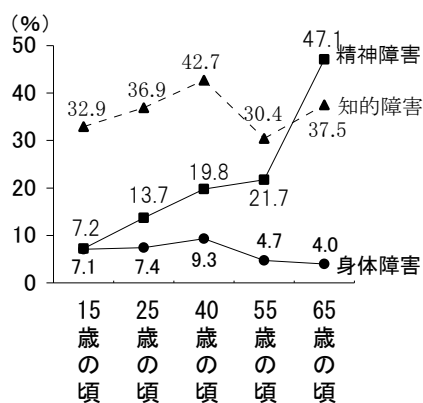
相手の言っていること、書かれていることを理解するのに苦労する



近隣とのコミュニケーションが不足していて、災害時などが不安



支援者、障害者以外の友達等がない



3 健康・医療

(1) <入所、在宅> 過去1年間の医療機関の受診状況(報告書81～84ページ)

【概要】 「受診した(しようとした)」は入所している人、在宅の人ともに88.2%となっている。
「受診しなかった」は入所している人で11.8%、在宅の人で9.2%となっている。

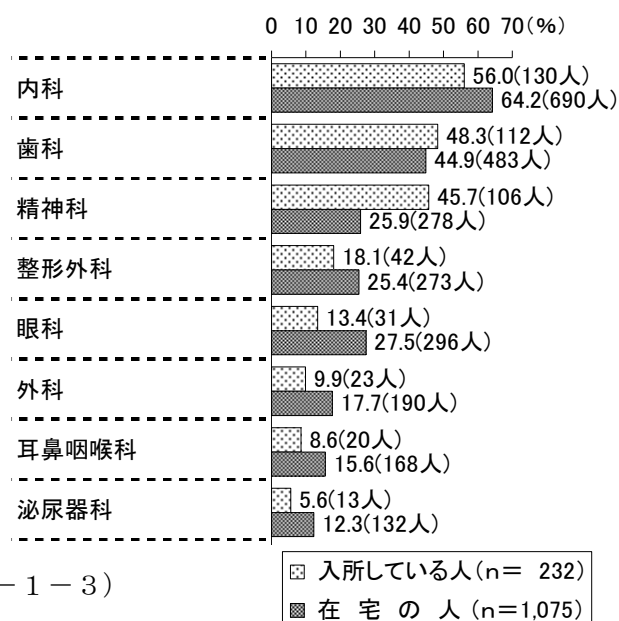
(1-1) <入所、在宅の受診者> 受診した診療科(複数回答)(報告書85～93ページ)

【概要】 入所している人では、「内科」(56.0%)、
「歯科」(48.3%)、「精神科」(45.7%)
の3つの科が多い。在宅の人では、「内科」(64.2%)と「歯科」(44.9%)の2
つの科が多い。(図表3-1-1)

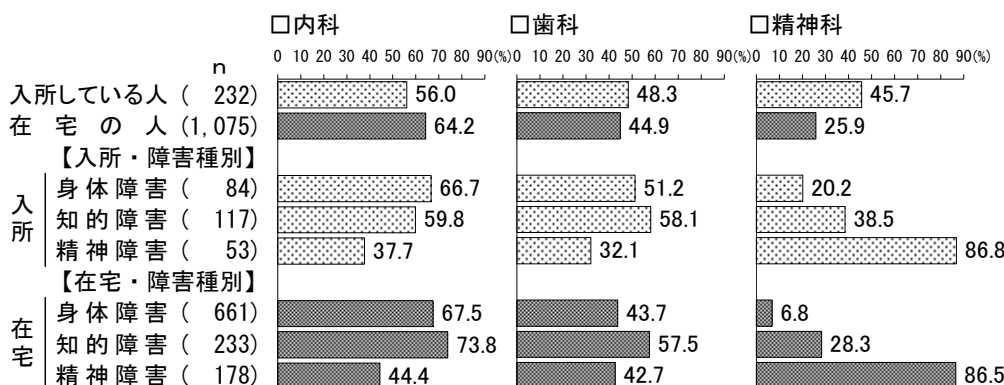
【種別】 身体障害、知的障害は入院・在宅とも
内科(身体-入院66.7%、知的-入院
59.8%)、歯科(身体-入院51.2%、知的
-入院58.1%)の利用が多く、精神障害
は精神科(入院86.8%、在宅86.5%)が
突出している。(図表3-1-2)

【年代】 40代と60歳以上で比較すると、60歳以
上で「内科」、「整形外科」、「眼科」、「外
科」、「泌尿器科」の割合が高い。(図表3-1-3)

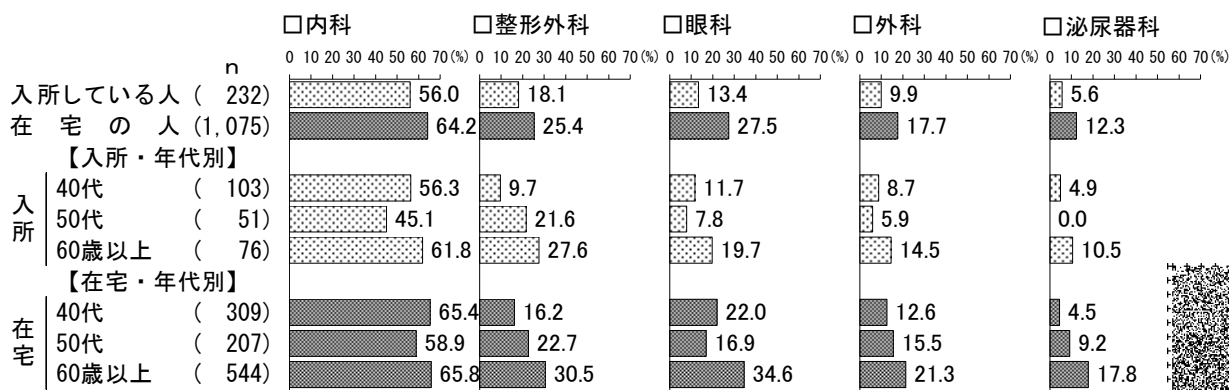
図表3-1-1 受診した診療科



図表3-1-2 受診した診療科(障害種別)



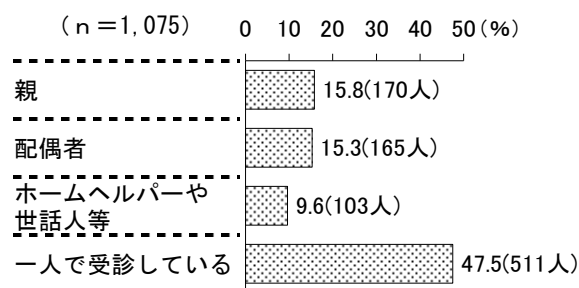
図表3-1-3 受診した診療科(年代別)



(1-2) <在宅の受診者> 受診時の付き添いの有無 (複数回答) (報告書94～98ページ)

【概要】 「親」が15.8%、「配偶者」が15.3%、「ホームヘルパーや世話人等」が9.6%などとなっている。「一人で受診している」は47.5%である。(図表3-1-4)

図表3-1-4 受診時の付き添いの有無

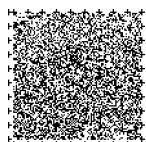
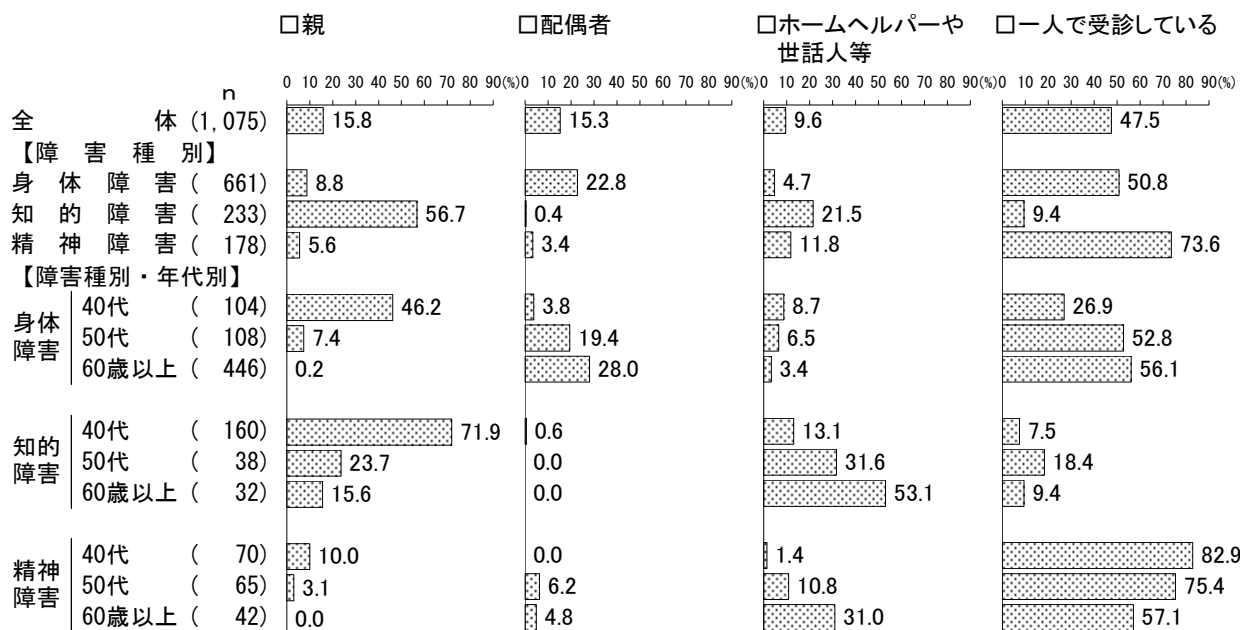


【種別】 身体障害・精神障害では、「一人で受診している」(身体50.8%、精神73.6%)が多く、知的障害では、「親」(56.7%)が多い。

(図表3-1-5)

【年代】 年代が進むにつれ、身体障害では「親」の割合が低くなり、「一人で受診している」、「配偶者」の割合が高くなる。知的障害でも「親」の割合が低くなるが、代わりに割合が高くなるのは「ホームヘルパーや世話人等」である。精神障害では各年代とも「一人で受診する」割合が高いが、その割合は年代が進むにつれて低くなり、「ホームヘルパーや世話人等」の割合が高くなる。(図表3-1-5)

図表3-1-5 受診時の付き添いの有無(障害種別・年代別)



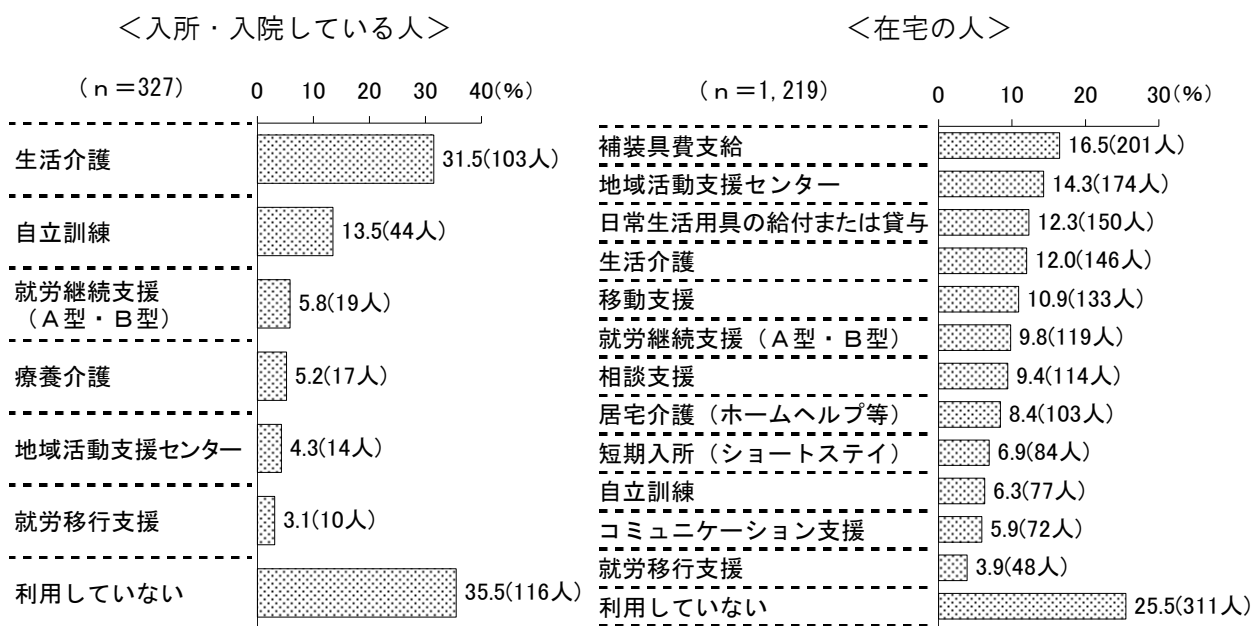
4 障害福祉サービスについて

(1) <入所・入院、在宅> 利用している障害福祉サービス（複数回答）（報告書120～129ページ）

【概要】 入所・入院している人では、「生活介護」が31.5%で最も多く、次いで「自立訓練」(13.5%)、「就労継続支援（A型・B型）」(5.8%)、「療養介護」(5.2%)、「地域活動支援センター」(4.3%)などの順となっている。

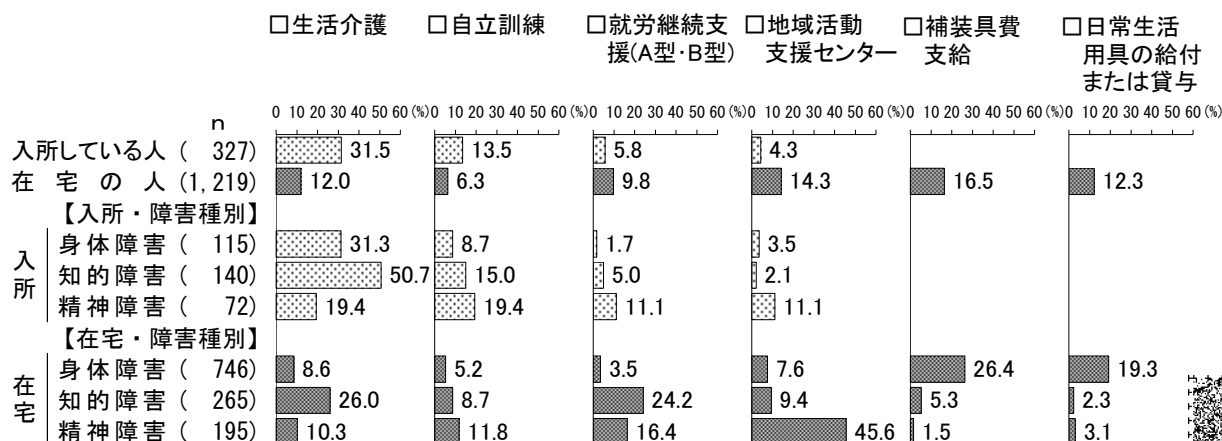
在宅の人では、「補装具費支給」が16.5%で最も多く、次いで「地域活動支援センター」(14.3%)、「日常生活用具の給付または貸与」(12.3%)、「生活介護」(12.0%)、「移動支援」(10.9%)などの順となっている。（図表4-1-1）

図表4-1-1 利用している障害福祉サービス



【種別】 身体障害では入院で「生活介護」(31.3%)、在宅で「補装具費支給」(26.4%)、「日常生活用具の給付または貸与」(19.3%)が多く、知的障害では「生活介護」(入院50.7%、在宅26.0%)、「就労継続支援(A型・B型)」(在宅24.2%)が多い。精神障害では入院で「生活介護」と「自立訓練」(ともに19.4%)、在宅で「地域活動支援センター」(45.6%)が多い。（図表4-1-2）

図表4-1-2 利用している障害福祉サービス(障害種別)



5 介護保険サービスについて

(1) <在宅> 介護保険制度の利用状況 (報告書154～156ページ)

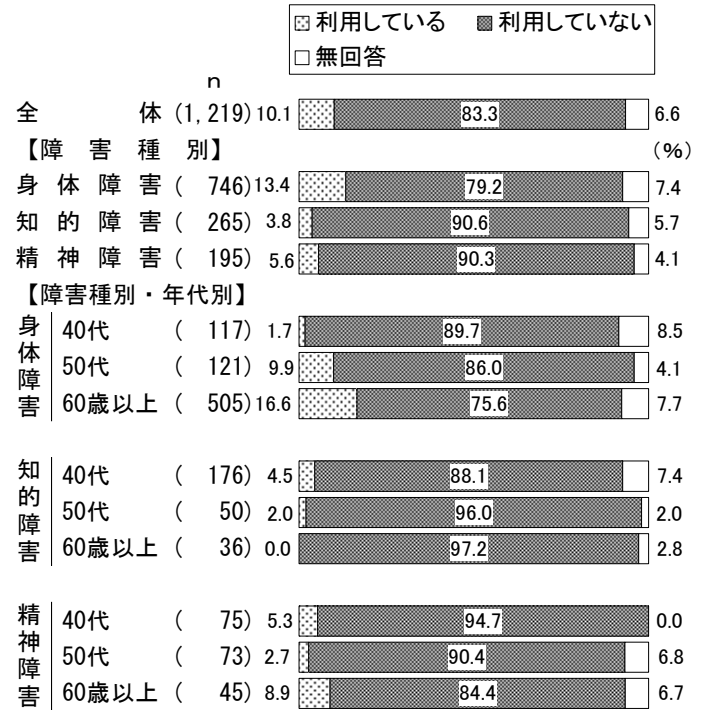
【概要】 介護保険制度を「利用している」は10.1%、「利用していない」は83.3%となっている。

(図表5-1-1)

図表5-1-1 介護保険サービスの利用状況 (障害種別・年代別)

【種別】 身体障害で「利用している」が13.4%となっており、知的障害(3.8%)、精神障害(5.6%)より高くなっている。(図表5-1-1)

【年代】 身体障害で、年代が進むにつれ、「利用している」の割合が高くなっている。(図表5-1-1)



(1-1) <在宅> 利用している介護保険サービスの種類 (複数回答) (報告書162～167ページ)

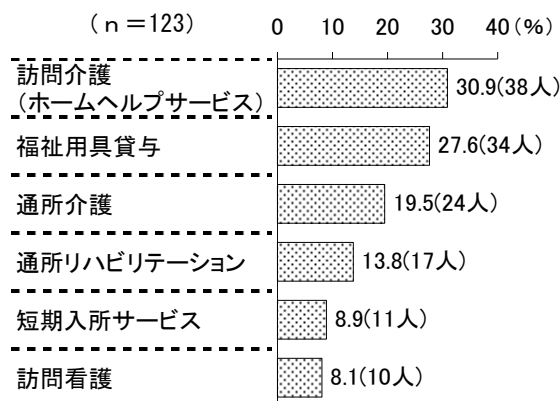
【概要】 「訪問介護 (ホームヘルプサービス)」が30.9%で最も多く、次いで「福祉用具貸与」(27.6%)、「通所介護」(19.5%)、「通所リハビリテーション」(13.8%)などの順となっている。(図表5-1-2)

【種別】 身体障害では、「訪問介護 (ホームヘルプサービス)」(32.0%)、「福祉用具貸与」(31.0%)が多い。(図表5-1-3)

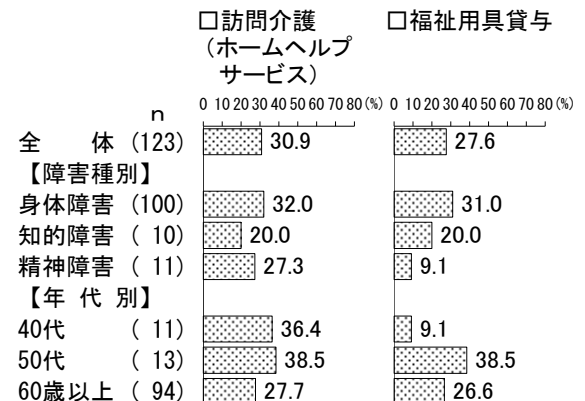
【年代】 50代以上では、40代と比べて「福祉用具貸与」の割合が高くなっている。

(図表5-1-3)

図表5-1-2 利用している介護保険サービスの種類



図表5-1-3 利用している介護保険サービスの種類 (障害種別・年代別)



6 権利擁護

(1) <入所・入院、在宅> 日常生活自立支援事業の利用状況（報告書179～182ページ）

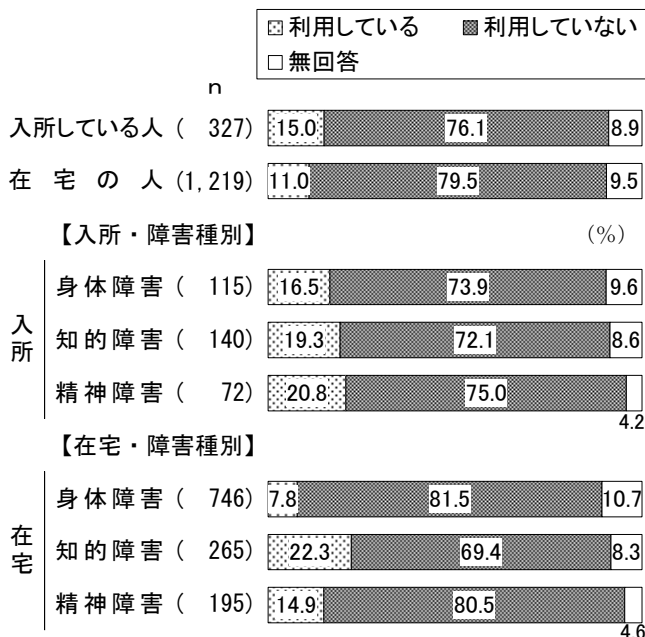
※日常生活自立支援事業は、判断能力が不十分な方が地域において自立した生活が送れるよう、福祉サービスの利用援助などを行う事業。（具体的には、行政手続き支援や日常生活の金銭管理など）

【概要】 入所・入院している人では「利用している」が15.0%、「利用していない」が76.1%となっている。

在宅の人では「利用している」が11.0%、「利用していない」が79.5%となっている。（図表6-1）

【種別】 知的障害（入所19.3%、在宅22.3%）・精神障害（入所20.8%）では、身体障害より「利用している」の割合が高い。（図表6-1）

図表6-1 日常生活自立支援事業の利用状況（障害種別）



(2) <入所・入院、在宅> 成年後見制度の利用状況（報告書189～192ページ）

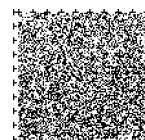
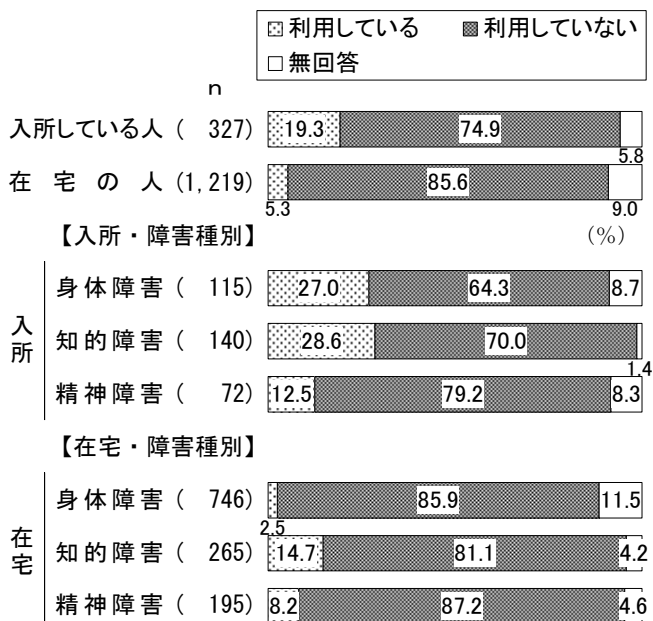
※成年後見制度は、判断能力が不十分な方々の財産管理や、代理契約などの法律行為を行うことにより、本人を保護・支援する制度。

【概要】 入所・入院している人では、「利用している」が19.3%で、「利用していない」は74.9%となっている。

在宅の人では、「利用している」が5.3%で、「利用していない」は85.6%となっている。（図表6-2）

【種別】 知的障害では、他の障害と比べて「利用している」（入院28.6%、在宅14.7%）の割合が高くなっている。（図表6-2）

図表6-2 成年後見制度の利用状況（障害種別）



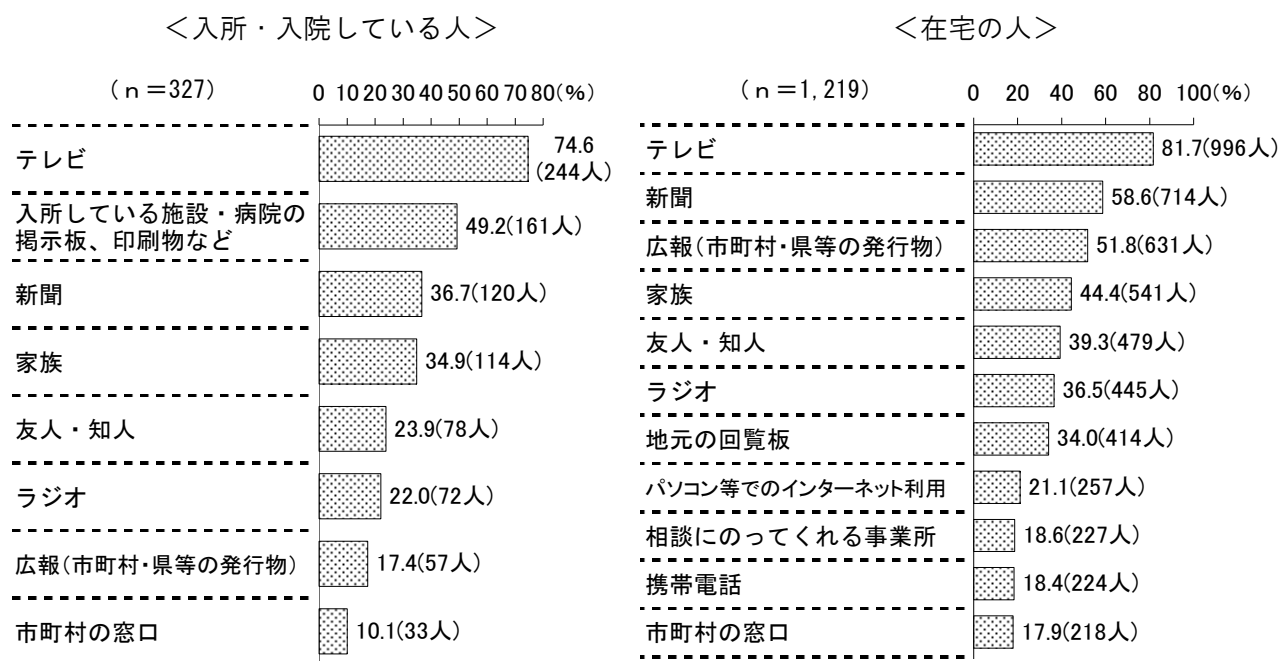
7 情報・コミュニケーション

(1) <入所・入院、在宅> 情報を入手する手段（複数回答）（報告書202～210ページ）

【概要】 入所・入院している人では、「テレビ」が74.6%で最も多く、次いで「入所している施設・病院の掲示板、印刷物など」（49.2%）、「新聞」（36.7%）、「家族」（34.9%）などの順となっている。

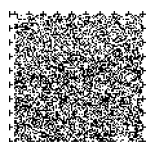
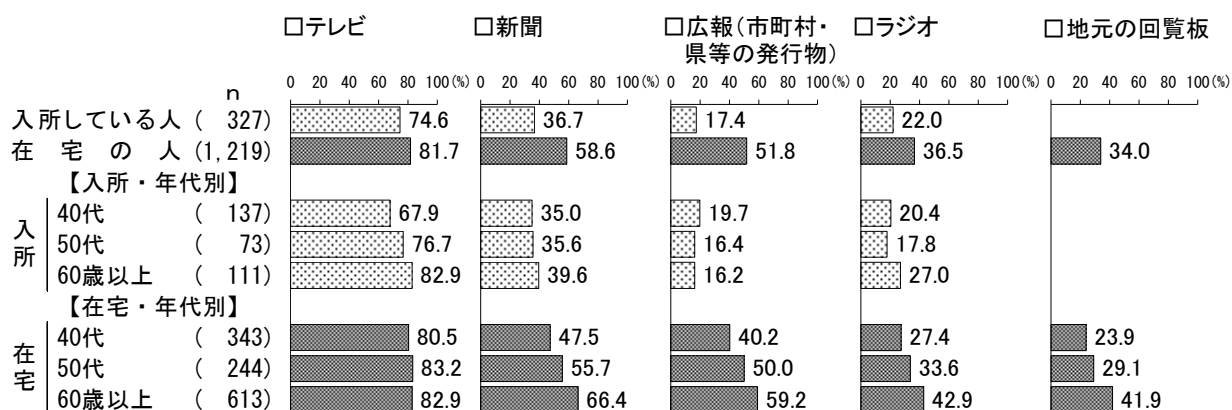
在宅の人では、「テレビ」が81.7%で最も多く、次いで「新聞」（58.6%）、「広報（市町村・県等の発行物）」（51.8%）、「家族」（44.4%）、「友人・知人」（39.3%）などの順となっている。（図表7-1-1）

図表7-1-1 情報を入手する手段



【年代】 年代が進むにつれ、入院では「テレビ」、「新聞」が、在宅では「新聞」、「広報」、「ラジオ」、「地元の回覧板」の割合が高くなっている。（図表7-1-2）

図表7-1-2 情報を入手する手段(年代別)



(2) <入所・入院、在宅> 情報の取得、伝達をするうえで困ること（複数回答）

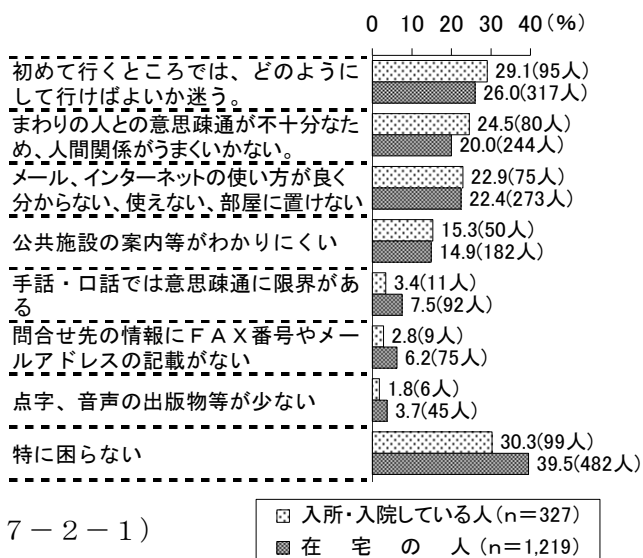
（報告書211～219ページ）

【概要】 入所・入院している人では、「初めて行くところでは、どのようにして行けばよいか迷う。」が29.1%で最も多く、次いで「まわりの人との意思疎通が不十分なため、人間関係がうまくいかない。」が24.5%となっている。「特に困らない」は30.3%である。

在宅の人では、「初めて行くところでは、どのようにして行けばよいか迷う。」が26.0%で最も多く、次いで「メール、インターネットの使い方が良く分からない、使えない」が22.4%となっている。

「特に困らない」は39.5%である。（図表7-2-1）

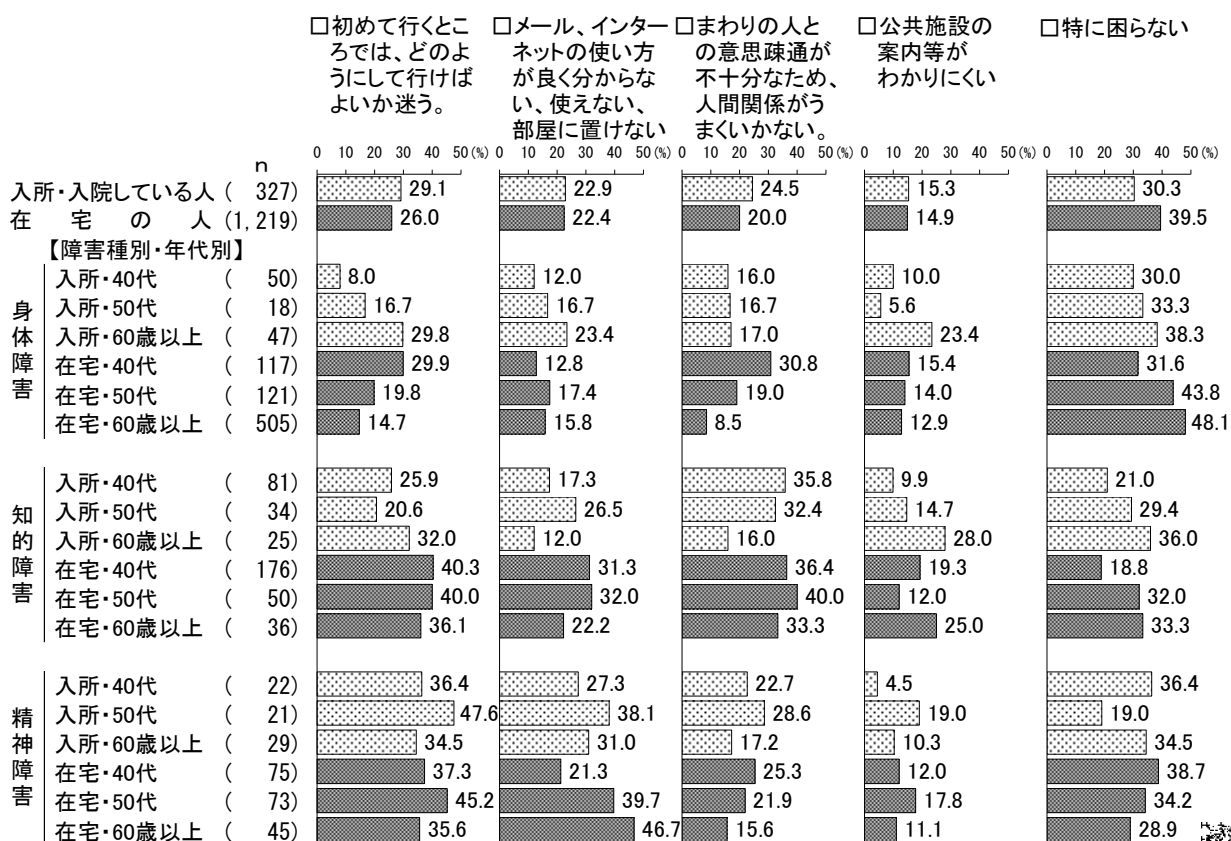
図表7-2-1 情報の取得、伝達をするうえで困ること



【年代】 年代が進むにつれ、在宅の身体障害で「特に困らない」の割合が高く、在宅の精神障害で「メール、インターネットの使い方が良く分からない、使えない」が高くなっている。

（図表7-2-2）

図表7-2-2 情報の取得、伝達をするうえで困ること(障害種別・年代別)



(※)在宅の人に対しては、「メール、インターネットの使い方が良く分からない、使えない」としていた。

8 就労の状況

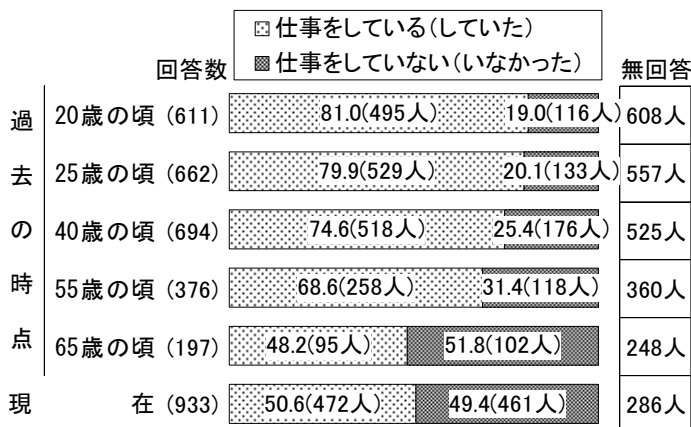
(1) <在宅> 現在および過去の就労状況（報告書220～228ページ）

【概要】 仕事をしている(いた)か、いない

(いなかった)かについては、現在では「仕事をしている」が50.6%、「仕事をしていない」が49.4%となっている。「仕事をしていた」の割合は、20歳の頃で81.0%、25歳の頃で79.9%、40歳の頃で74.6%、55歳の頃で68.6%、65歳の頃で48.2%となっている。（図表8-1-1）

(注) 右図の割合は、いずれも回答数に占める割合を示す。無回答は、母数に含まない。

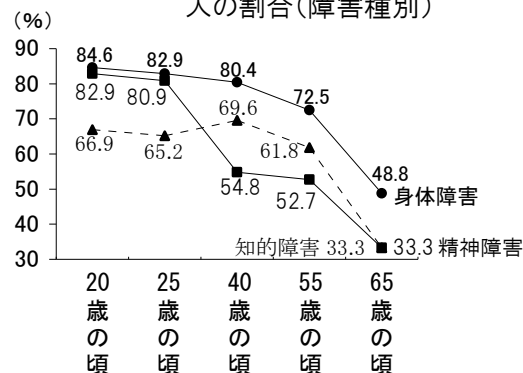
図表8-1-1 現在および過去の就労状況



【種別】 身体障害、精神障害の20歳の頃は、8割を超える就労率だが、加齢とともに減少する。特に、精神障害の25歳の頃から40歳の頃で減少が著しい。知的障害は20～55歳の頃まで大きな差はなく6割台で推移している。

(図表8-1-2)

図表8-1-2 仕事をしている(していた)人の割合(障害種別)



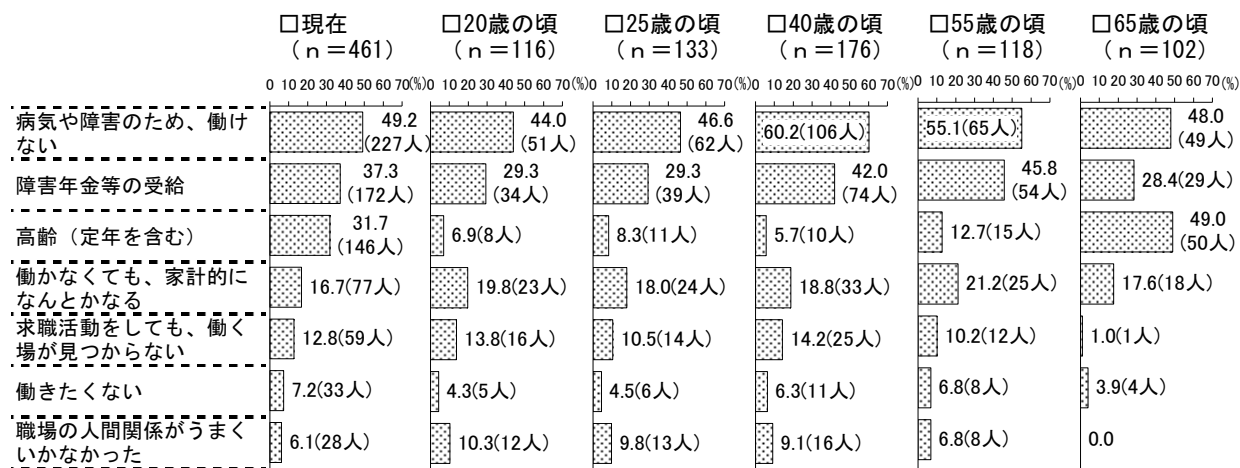
(1-1) <在宅の未就労者> 仕事をしていない(いなかった)理由（複数回答）

(報告書229～234ページ)

【概要】 「病気や障害のため、働けない」は、65歳の頃(48.0%)で2番目に多い理由となっている以外は、すべての時期で最も多い理由となっている。「障害年金等の受給」は、65歳の頃(28.4%)で3番目に多い理由となっている以外は、すべての時期で2番目に多い理由となっている。「高齢(定年を含む)」は、65歳の頃(49.0%)で最も多く、現在(31.7%)でも3番目に多い理由となっている。

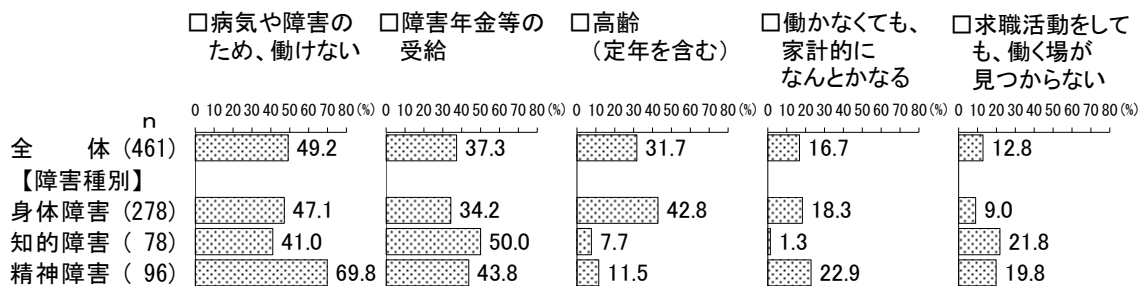
(図表8-1-3)

図表8-1-3 仕事をしていない(いなかった)理由



【種別】 現在仕事をしていない理由は、すべての障害種別において「病気や障害のため働けない」、「障害年金等の受給」が多い。このほか、身体障害では「高齢」（42.8％）が、知的障害では「求職活動をしていても働く場が見つからない」（21.8％）が多くなっている。精神障害では、「働かなくても家計的になんとかなる」（22.9％）、「求職活動をしていても働く場が見つからない」（19.8％）が多くなっている。（図表 8－1－4）

図表8－1－4 現在仕事をしていない理由(障害種別)



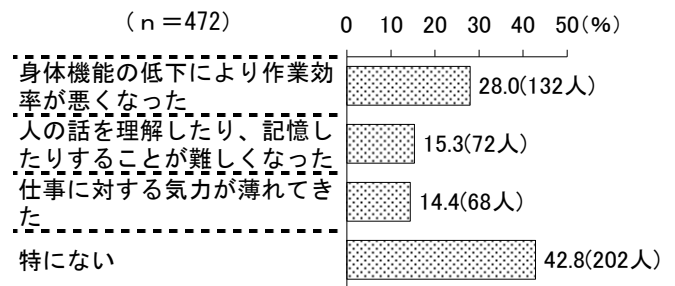
（１－２）＜在宅の就労者＞ 仕事を続ける上で年齢を重ねることで困難になっていること

（報告書235～239ページ）

【概要】 「身体能力の低下により作業効率が悪くなった」が28.0％で最も多く、次いで「人の話を理解したり、記憶したりすることが難しくなった」(15.3％)、「仕事に対する気力が薄れてきた」(14.4％)の順となっている。「特にない」は42.8％である。

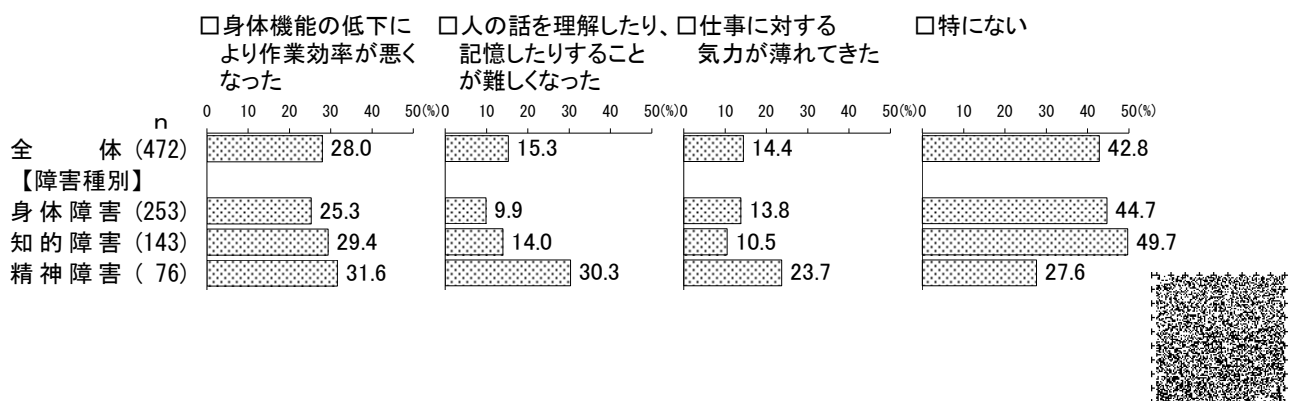
（図表 8－1－5）

図表8－1－5 仕事を続ける上で年齢を重ねることで困難になっていること



【種別】 身体障害・知的障害では「特にない」（身体44.7％、知的49.7％）が最も多く、次いで「身体機能の低下により作業効率が悪くなった」（身体25.3％、知的29.4％）が多くなっている。精神障害では、他の障害と比べて「特にない」（27.6％）の割合が低く、「人の話を理解したり、記憶したりすることが難しくなった」（30.3％）、「仕事に対する気力が薄れてきた」（23.7％）の割合が高くなっている。（図表 8－1－6）

図表8－1－6 仕事を続ける上で年齢を重ねることで困難になっていること(障害種別)



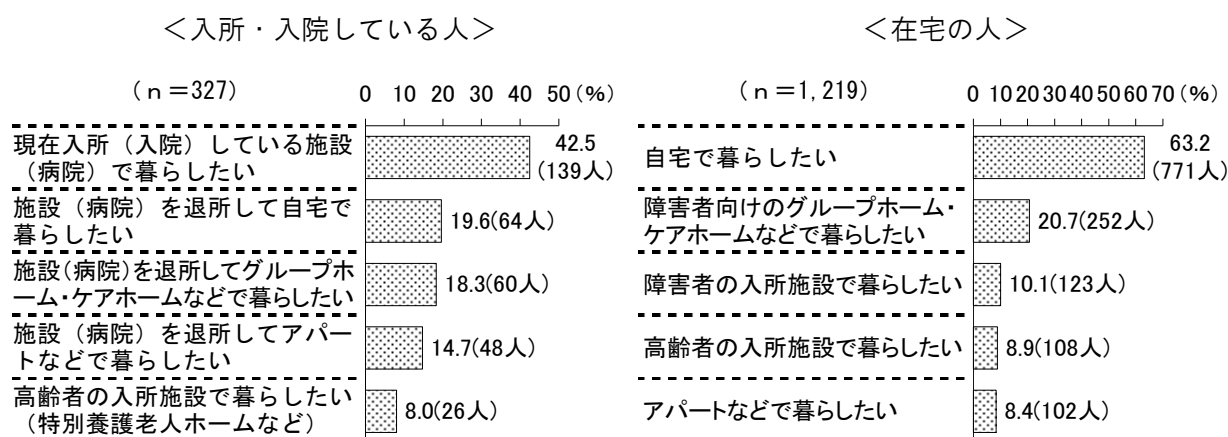
9 将来の暮らし

(1) <入所・入院、在宅> 将来の生活の場の希望 (複数回答) (報告書248～256ページ)

【概要】 入所・入院している人では、「現在入所 (入院) している施設 (病院) で暮らしたい」が42.5%で最も多いが、「施設 (病院) を退所して自宅で暮らしたい」(19.6%)、「施設 (病院) を退所してグループホーム・ケアホームなどで暮らしたい」(18.3%)、「施設 (病院) を退所してアパートなどで暮らしたい」(14.7%) など、退所して地域で生活することを希望する人に次いで多い。

在宅の人では、「自宅で暮らしたい」が63.2%で最も多く、次いで「障害者向けのグループホーム・ケアホームなどで暮らしたい」(20.7%) となっている。(図表9-1-1)

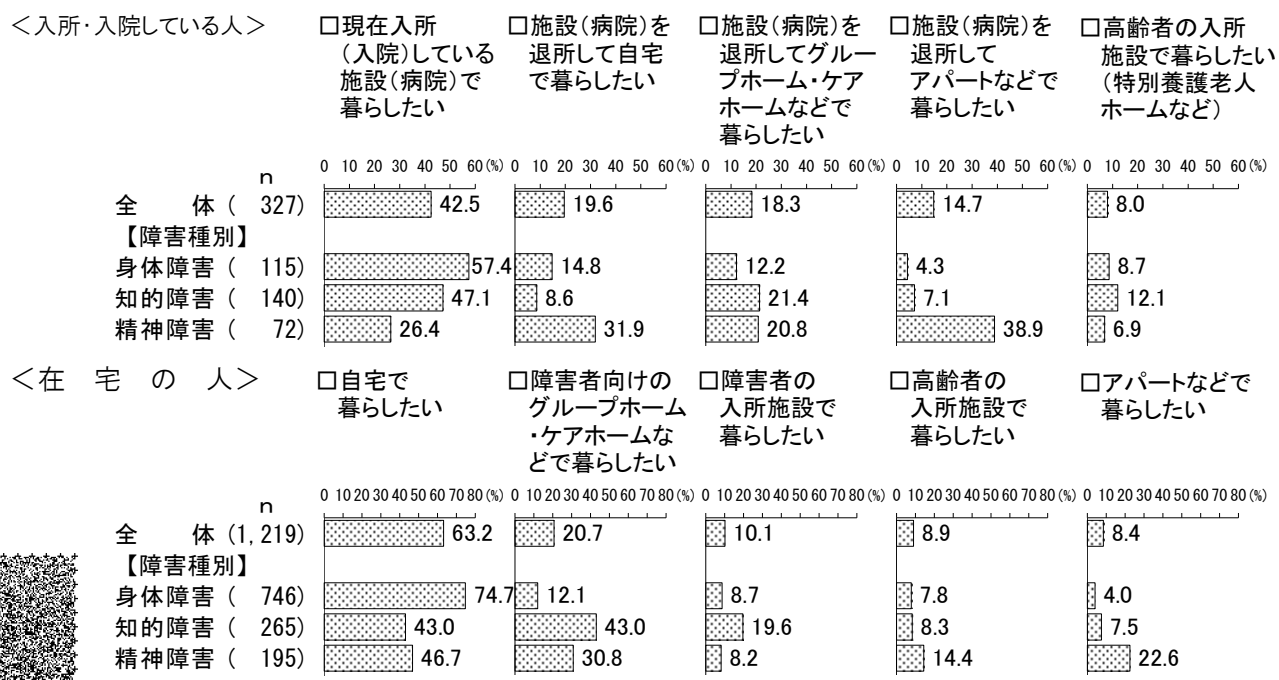
図表9-1-1 将来の生活の場の希望



【種別】 身体障害、知的障害では、入所・入院している人は「現在の施設 (病院)」、在宅の人は「自宅」、「グループホーム・ケアホーム」が多い。精神障害では、入所・入院、在宅とも「自宅」、「グループホーム・ケアホーム」、「アパート」といった地域での生活が多い。

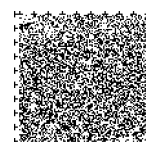
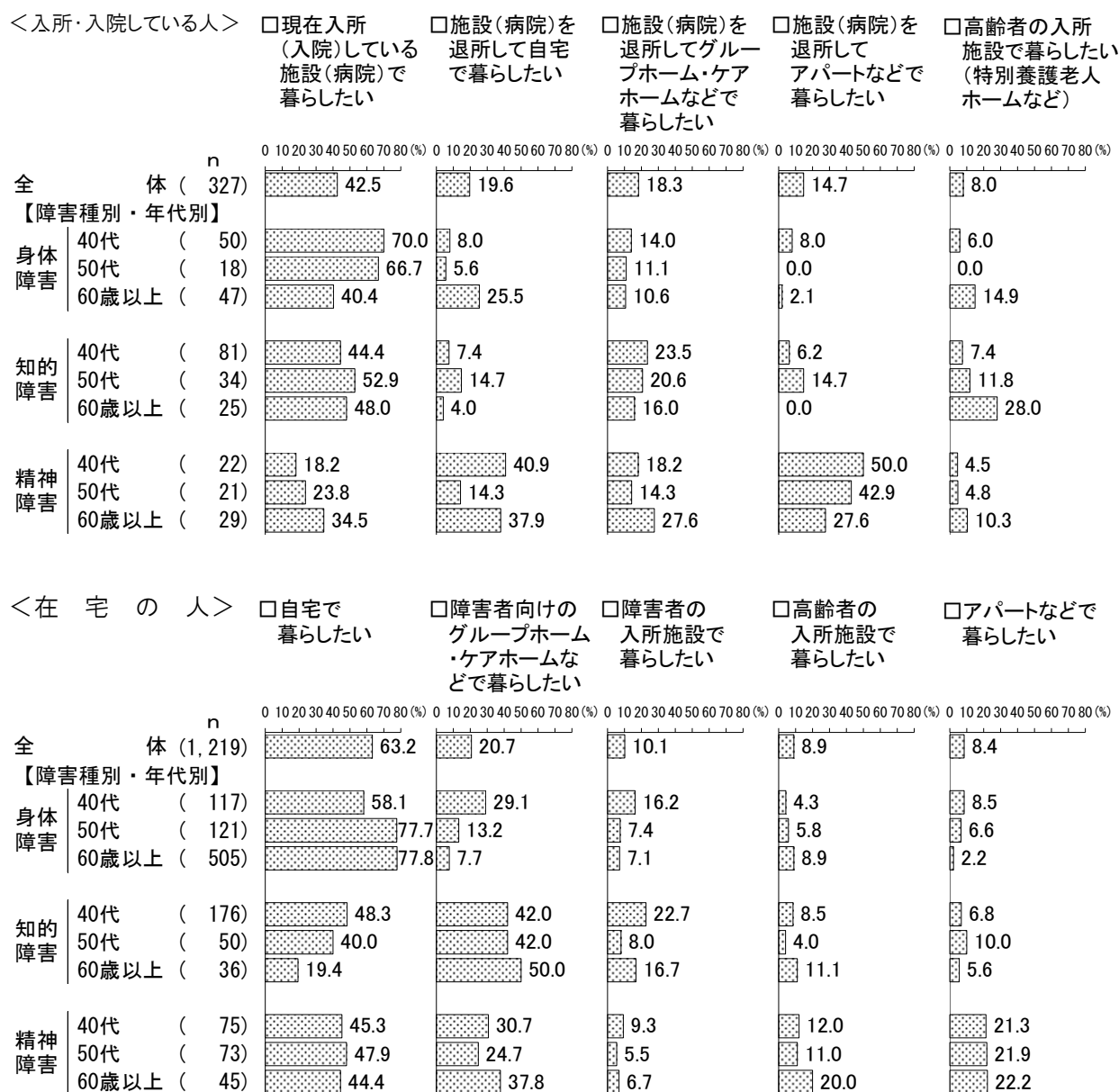
(図表9-1-2)

図表9-1-2 将来の生活の場の希望 (障害種別)



【年代】 年代が進むにつれ、「高齢者の入所施設」への希望がおおむね高くなる。入所・入院している人では、身体障害は「施設での暮らし」を望む割合が低くなり（70.0%→40.4%）、精神障害は逆に高くなっている（18.2%→34.5%）。在宅の人では、身体障害は「自宅での暮らし」が高くなっている（58.1%→77.8%）。知的障害は「自宅での暮らし」が低くなり（48.3%→19.4%）、「グループホーム・ケアホームでの暮らし」が高くなっている（42.0%→50.0%）。（図表9-1-3）

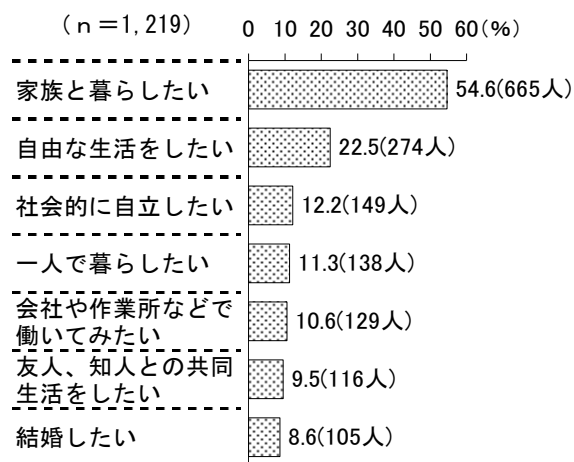
図表9-1-3 将来の生活の場の希望(障害種別・年代別)



(2) <在宅> 将来の生活への希望 (複数回答) (報告書267～272ページ)

【概要】 「家族と暮らしたい」が54.6%で最も多く、次いで「自由な生活をしたい」(22.5%)、「社会的に自立したい」(12.2%)、「一人で暮らしたい」(11.3%)、「会社や作業所などで働いてみたい」(10.6%)などの順となっている。(図表9-2-1)

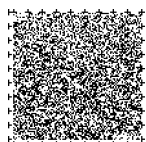
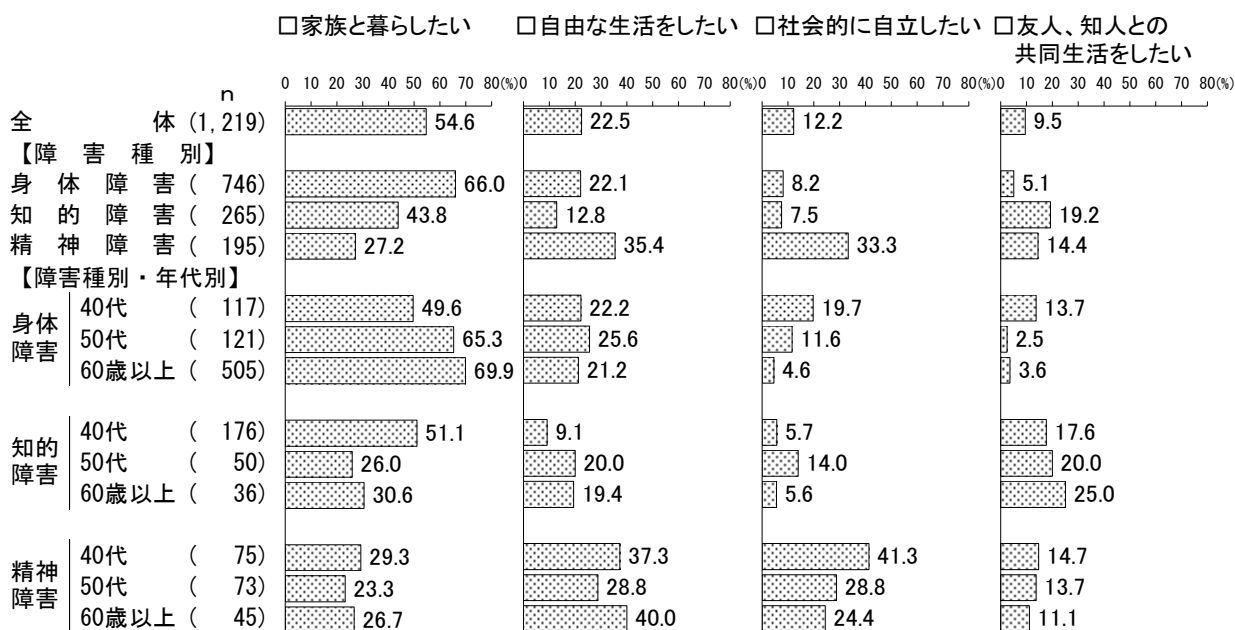
図表9-2-1 将来の生活への希望



【種別】 身体障害、知的障害では、「家族と暮らしたい」が多く、精神障害では、「自由な生活をしたい」、「社会的に自立したい」が多くなっている。(図表9-2-2)

【年代】 年代が進むにつれ、身体障害では「家族と暮らしたい」の割合が高くなり、知的障害では「家族と暮らしたい」の割合が低くなる一方、「友人、知人との共同生活をしたい」の割合が高くなっている。(図表9-2-2)

図表9-2-2 将来の生活への希望(障害種別・年代別)



10 自由意見

(1) 年齢を重ねるにあたって必要な制度やサービス（自由回答）

入所・入院している人では117人から155件、在宅の人では523人から684件の意見が寄せられた。
主な意見は以下のとおりである。

<必要な支援・サービス>

	入所	在宅	計
○移動支援の充実	10	39	49
○交流・活動の場の提供	9	37	46
○相談支援体制の充実	4	30	34
○グループホーム、ケアホームに入居したい	3	31	34
○補装具の交換をホームヘルパーや施設の職員に行ってほしい	0	24	24
○家事一般の訪問介護サービス	0	20	20
○手話通訳の派遣	0	11	11
○見守り、定期的な訪問などのアウトリーチ支援	3	7	10
○食事の支援・お弁当の配達サービス	0	8	8

<障害者に対する給付>

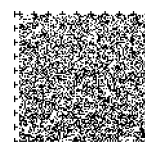
○障害年金の充実	5	31	36
○医療費負担の軽減	2	13	15
○生活用品、補装具等の購入費用の助成、無償化	0	15	15

<入所・入院について>

○高齢者施設に入居したい	5	13	18
○障害者施設に入居したい	2	15	17
○入所費用の負担の少ない施設を増やしてほしい	2	7	9
○現在の施設で暮らし続けたい	6	0	6

<就労について>

○就労の場の拡大、高齢者の就労の場の拡大	3	22	25
----------------------------	---	----	----



(2) 年齢を重ねることに関する希望や不安（自由回答）

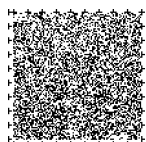
入所・入院している人では158人から237件、在宅の人では530人から645件の意見が寄せられた。
主な意見は以下のとおりである。

<心配や不安、不満>

	入所	在宅	計
○親などの介助者が高齢で介助できなくなってからの生活に不安がある ……………	56	122	178
○将来の健康状態の悪化や障害が重くなることに不安がある ……………	19	46	65
○障害年金の少なさや蓄えが乏しいなどの経済面に不安がある ……………	12	38	50
○運転・装具交換などの日常動作が困難になることに不安がある ……………	2	20	22
○将来に漠然とした不安がある ……………	3	11	14
○現在の仕事ができなくなる、将来なくなるかもしれないことへの不安 ……………	2	9	11
○自分又は同居する人が病気になった場合の生活に不安を感じる ……………	0	9	9
○親などの現在の主な介助者以外の親族と疎遠になっていること ……………	8	0	8
○災害時などの緊急時に対しての不安 ……………	0	7	7
○高齢となった親の介護を障害者である自分ができるかどうか ……………	4	2	6

<希望>

○仕事をしたい、就職したい ……………	5	23	28
○自宅やグループホームなど地域で生活したい ……………	11	8	19
○現在の施設・病院で暮らし続けたい、退所の不安なく暮らしたい ……………	12	3	15
○入所・入院施設の充実 ……………	3	11	14
○高齢者施設に入居したい ……………	7	7	14
○旅行したり、いろいろなところに出かけたい ……………	7	6	13
○社会全体の障害者に対する理解がさらに深まってほしい ……………	2	9	11
○結婚したい ……………	3	6	9
○趣味や生きがいの充実 ……………	1	8	9
○友だちや仲間と暮らしたい ……………	0	8	8
○安定して暮らせるお金がほしい ……………	0	8	8
○友達や近所とのつきあいを大切にしたい ……………	3	4	7
○障害福祉サービスの充実、高齢者施策の充実 ……………	2	5	7
○人の役に立ちたい ……………	0	7	7
○気軽に集えるコミュニケーションの場がほしい ……………	0	7	7
○親族と仲良く交流したい ……………	2	4	6



Ⅱ 市町村調査の結果の概要（調査票3）

38市町村から回答があった調査結果の概要は以下のとおりである。

1 障害福祉サービスから介護保険への切り替えの状況

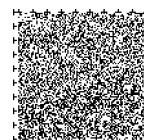
	団体数
○原則として介護保険を適用し、不足するサービスは障害福祉を利用している……………	36
○すべて介護保険に切り替えている……………	2

2 高齢期の障害者に必要な制度やサービス（自由回答）

	団体数
<必要な支援・サービス>	
○入所施設等の拡充……………	4
○交通手段の提供を含めた外出の支援……………	3
○病院で診察を受ける際の付添い……………	2
○見守り、定期的な訪問などのアウトリーチ支援……………	2
○公的書類の申請のサポート、代行……………	2
<権利擁護>	
○成年後見制度の利用拡大……………	4
<介護保険の受け入れ態勢の整備>	
○介護保険施設へ移行するためには知的障害・精神障害者を受け入れることのできる態勢が 整った施設が必要……………	3
<手続・窓口サービスについて>	
○必要書類等の簡略化、手続きの簡素化……………	3

3 高齢期の障害者に対する対応で留意する点・今後の課題（自由回答）

	団体数
<障害福祉サービスと介護保険サービスの制度の違い>	
○二つの制度と二つの判断基準が存在し、同じように支援を受ける必要のある障害者でも、 利用出来るサービスや利用者負担が異なることがあるのは公平性を欠く……………	4
○制度の違いを説明するのが困難であり、障害者が制度を理解するのも難しい……………	3
<利用者負担の軽減>	
○介護保険に切り替わることにより増える利用者負担額の軽減……………	2

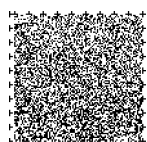


Ⅲ 事業者調査の結果の概要（調査票4）

52事業所から回答があった調査結果の概要は以下のとおりである。

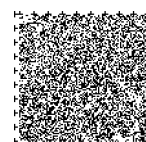
1 高齢期の障害者が抱える課題（介護保険関係以外）（自由回答）

＜入所・入院について＞	入所	通所	相談	訪問	計
○短期入所後に移行できる施設が見つからない……………	1	1	2	1	5
○入所・入院している人では、現在の生活のリズムが確立していることに より日常生活動作（以下、ADLと略す）ができていない方が少なくなく、 施設移行によりADLの低下や、精神的に不安定になることがみられる…	2	1	0	0	3
○身体介護の利用が多くなってきても、移行できる施設が見つからない…	1	0	3	0	4
＜必要な支援・サービス＞					
○介助者・支援者が高齢化し、介助・支援ができなくなること……………	1	4	1	3	9
○言葉の理解が難しいこと……………	2	1	0	0	3
＜健康・医療について＞					
○施設内では健康面のケアに配慮している……………	3	1	0	0	4
○問題行動や動作困難について、障害が原因なのか、疾病が原因なのかの 区別が難しい……………	1	3	0	0	4
＜サービス事業者が抱える課題＞					
○バリアフリーに対応した施設への改修が進んでいない……………	3	0	0	0	3
○障害の重度化により見守り、看護に要する人手が多くなる……………	2	0	0	0	2
○障害者ひとりひとりの症状が異なるため、個別の配慮が必要になり、適 切な対応となるまでの試行錯誤がある……………	0	1	0	1	2
○利用の予約を受けていても、当日の利用キャンセルが生じることが多い…	0	0	0	2	2



2 障害福祉サービスから介護保険への切り替えにより生じる課題(自由回答)

	入所	通所	相談	訪問	計
○障害福祉サービスで受けられていたサービスが介護保険サービスには なかったり、利用に制限が加わること	4	3	2	7	16
○介護保険サービスの利用には自己負担が発生すること	4	6	0	3	13
○介護保険サービスの内容に障害者が対応し、円滑に移行できるかどうか...	5	5	1	1	12
○事業者間で引継が円滑にできるか、ケアマネジャーとの連携ができるか...	1	2	3	2	8
○高齢障害者を受け入れる介護保険事業者が少ない、高齢障害者に必要な 水準のサービスを提供できる事業者が少ない	3	2	1	1	7
○要介護認定の基準が障害福祉サービスの実態とずれており、受けられる サービスが少なくなる	1	1	1	4	7
○介護保険制度の理解が進んでいない、または理解できないため、適切な サービスを選択できるか	2	4	1	0	7
○介護保険への切り替えを行った事例がなく、事業所で必要な手続きや処 理の内容がわからない	2	3	0	1	6
○健常の高齢者が高齢障害者と接することについて健常者、障害者双方が 理解、対応できるか	1	1	1	1	4
○介護保険サービスに切り替える必要があるという意識がある障害者・介 助者が少ない	1	1	0	0	2



3 高齢期の障害者に必要な制度やサービス（自由回答）

＜必要な支援・サービス＞	入所	通所	相談	訪問	計
○障害者に個別に必要なサービスを提供できる制度	2	3	1	2	8
○多様な目的のために外出の機会を提供できるサービス	1	2	0	1	4
○夜間サービス、24時間サービスの充実	1	1	1	0	3
＜障害福祉サービスと介護保険サービスの関係＞					
○ケアマネジャーの能力向上、地域包括支援センターとの連携	1	2	2	2	7
○介護保険サービスへ切り替えず、障害福祉サービスを継続できるようにする ..	0	2	1	2	5
○障害福祉サービスと介護保険サービスを融合した新しい制度	3	0	0	0	3
＜健康・医療について＞					
○医療機関との連携による適切な医療の提供	1	5	4	3	12
＜サービス事業者への支援＞					
○必要なサービス項目が増えていくことに対応する事業所の人員の増員 や能力向上	2	2	0	1	5
○施設内のバリアフリー化改修工事費用の助成	1	2	0	0	3
＜入所・入院について＞					
○知的障害または精神障害の受け入れに特化、専門化した事業所の拡大 ..	3	2	1	2	8
＜経済的支援＞					
○高齢者加算などの年金・生活保護の給付の充実	2	2	2	2	8
＜介助者・支援者との関係＞					
○介助者・支援者の負担をケアする介助者・支援者向けのサービス	3	1	2	1	7
＜権利擁護＞					
○成年後見制度の充実	2	2	1	1	6

高齢期の障害のある人の実態調査 ＜概 要 版＞

平成 24 年 3 月

.....

発 行 千葉県健康福祉部障害福祉課

千葉市中央区市場町 1 番 1 号 電話：043（223）2935（直通）

